

### 韓国研修旅行を振り返って(学生レポートより)

一週間という滞在期間は、研修旅行が非常に濃かったこともあり、毎日が充実していったという間だった。自分の世界が広がるには十分な期間だったと思う。韓国は初めてだったこともあり、期待と不安と緊張と疲れで具合が悪くなってしまったことだけが唯一の心残りである。この体調、気持の変化だけで目まぐるしいものがあった。しかし、初めての外国で長期滞在、留学する人も最初は同じような気持ちになるのかもしれないと思った。異文化コミュニケーションの授業で習った「言語を失う」の意味が少しだけ分かった気がしている。まだ韓国は日本語が通じ、英語も使えるから良いものの、日本に来る外国人の方はもっと大変なんだろうなと感じた。その気持ちが分かっただけでも初日からの具合の悪さは良い経験であり、良い収穫であったと思っている。自分の身体の弱さを呪いたい一方で、今回ばかりは感謝してもいいかもしれない。

研修では大学や高校、宮殿など様々なところを訪問し、その先々で多くのことを学び、視野が広がっていった。その中でも一番印象が強く、いかに表面的なところだけを見て「理解している」と勘違いしていたかを知ったのが、やはり国際交流基金ソウルセンターでの特別講義だった。グループワークとして行った「目に見えない文化」が「目に見える文化」にどのような影響を与えているかを考えることで、自分自身について「気付いた」。「目に見える文化」を皆で挙げていた時、挙げられたもの全てに納得できた。しかし、それは日本では「普通じゃない」からで、韓国では「普通」のことだ。国が違うから、自分と違って当然だと分かったつもりだったが、実際に考えてみてやはり自分たちが「普通」で他は「違う」と心の中で思っていたことに「気付いた」。深く考えることで、自分の感覚が表面的なものであったことが分かって、少しだけショックを受けた。

この講義の後に参加した日本語授業でも学習者の方から「(日本の)お金を入れるトレイが不思議」という話があった。これも「目に見える文化」だろう。「どうして」と聞かれて答えられなかったということは、「文化は理由がないものが多い」と習ったことが本当であったということだ。知らないだけで理由があるのかもしれないが、当然すぎて考えたことがなかった。百聞は一見に如かず。例えとして出された「理由のない文化」よりも自分の身近なことのほうが実感がわいた。先生の言っていたことを疑っていた、ひねくれた自分の性格にも「気付き」、本当の話だったのだと「気付いた」。素直に受け止めることも大事なようだ。

今回の研修はなかなかハードだったので、もう少しゆっくり見たいと感じたところもあった。特に韓国語の勉強はじっくりやりたかった。韓国には機会があればもう一回行き

たいと思っているので、トロハウスで授業を受けようかと考えていたりする。交流会の無料券もあるし、一人でトロハウスまで行けるかが問題だが、是非とも参加してみたい。最後に、この研修旅行に参加できて本当に良かったと思う。研修で学んだたくさんの方のことを生かせるような毎日を送りたい(K・Cさん)。



---

私にとってはこれが2度目の韓国研修。韓国に行くのは3度目だった。初めて韓国に行った2年前の研修旅行とは違い、だいぶ落ち着いていたように思う。2年前の研修は正直「海外に行ってみよう」という気持ちで参加を決めたが、その研修での様々な出会いや学びは私に大きな影響を与えた。それまでマイナスイメージが大きかった韓国という国が好きになったし、何より本気で日本語教師を目指すきっかけの一つになった。このような前回の研修での思い出があり、私は今回の研修にも参加することにした。「海外に行きたい」や「旅行したい」というものではなく、日本語教育に携わる者として改めて「海外の日本語教育を見たい」と思った。

6泊7日の日程の中で、高校生・大学生・社会人と様々な学習者の方々と交流することができた。高校生は明るく元気いっぱい。授業中の発言も多く、楽しそうに授業を受ける姿が印象的だった。大学生は日本人大学生と何ら変わらない雰囲気。姉妹校の

忠南大学校では漢字の授業を見学させていただいた。日本語学校で行われている漢字の授業とは全く違った様子が興味深かった。また、使用されているテキストを見ると「天(あま)の下には自然の山川(さんせん)がある」など、日本では普段使われないような例文がいくつかあり、海外ではこのようなテキストが使われているのかと、これもまた興味深かった。

大真大学校の学生とは韓国文化探訪リサーチをし、韓国文化について様々なことを知ることができた。リサーチ報告会後の親睦会では、多くのことを話しながら楽しい交流ができた。社会人の方は日本に滞在経験のある方が多く、流暢に会話をすることができた。話をしていると時間があっという間に過ぎてしまい、時間がもっとあればと残念に思った。

研修では学習者との交流以外にも景福宮や民俗博物館を見学したり、異文化間コミュニケーションについての特別授業を受けたり、韓国語学習を体験したりと、とても充実した日々を過ごすことができた。中でも韓国語学習の体験は、日本語学習者の気持ちも体験できたように思い、とても良い経験になった。私はハングルが読める人向けコースに入ったが、教室で先生が話す韓国語が理解できなくて不安に思うことや、言いたいことがあっても単語が分からなかったり、自信がなかったりで口にすることができず黙ってしまうことがあった。日本語を交えながらの授業だったため、なんとかコミュニケーションを取りながら授業に参加することができたが、直接法で学ぶ(媒介語を使わず、日本語を日本語で学ぶ)学習者の不安などはきつともっとあるのではないかと思った。自分が学習者になってみるということは、教える立場の人にとって、とても大切なことだと感じた。

2度目の韓国研修だったが、前回とは違うことを多く学ぶことができたと思う。また、今回は中国人留学生とともに行動したこともあり、日本人の中だけには気がつかなかったであろうことにも気がつくことができた(留学生は日本人が集合時間の5分前には皆集合場所に揃っていることや、大人数なのにもかかわらずエスカレーターに順番にきれいに一列になって乗っていくことに感心していた)。7日間、旅行では経験できないようなことをたくさん経験し、とても充実していた。この日々の中で学んだことを忘れず今後につなげていきたいと思う。また、韓国語の学習も続け、再度韓国を訪れたいと思っている(T・Tさん)。

